

## 4th LNG Global Congress Asia Pacific

神鋼リサーチ(株) 室尾 洋二

今回 4 回目となる本国際会議は、会議前後に開催されるワークショップを含めて 2 月 9 日～12 日までの 4 日間の日程で、シンガポールの Suntec Convention & Exhibition Center で開催された。

この会議は、先進的な LNG プロジェクトに関与している幅広いシニアクラス的意思決定者を迎え、参加者が希望するキーマンとの交流機会を提供する会議と位置付けられている。今年も、原油価格の下落を踏まえて、アジア地域における、LNG の需給と価格動向を従来の供給者サイドではなく、バイヤーサイド（日本：大阪ガス／韓国：KOGAS）からの視点で話題を提供し、議論するという新たな企画も行われた。

開催期間中の参加者は、約 100 人規模であった。その地域別では、LNG 輸入国である日本、韓国、中国など北アジア地域からの参加者 5%、欧米からの参加者 10%、残りは、開催国である、シンガポールおよびその周辺諸国、マレーシア、インドネシア、フィリピンなどからの参加者であった。

### 写真 1 国際会議開催会場とパネルディスカッション



出所：筆者撮影

筆者は、本会議の 2 日間と前日の“Small To Mid Scale LNG”のワークショップに参加した。本会議のプログラムは、大きくは、アジア大太平洋州における LNG 需給および価格動向、LNG 関連インフラとプロジェクト動向の 2 部から構成されており、主な講演要旨は以下の通りであった。

#### 1) アジア大太平洋州における LNG 需給および価格動向（図 1）：

原油価格の下落により、福島事故以来続いていた LNG スポット市場の「アジアプレミアム」は消滅。アジアの LNG スポット価格は、2015 年 1 月 15 日時点で、欧州と同等価格となった。

グローバルな LNG 市場の中長期的な需給は、現状は、欧州経済の停滞と中国経済の減速などの影響で、供給能力が需要を上回っている状況にあり、2020 年前後までは、この状況が続くと見通し。

その後の LNG 価格の決定要因は、2020 年前後からの新規 LNG プロジェクトの立ち上がりと需要のバランスによる。

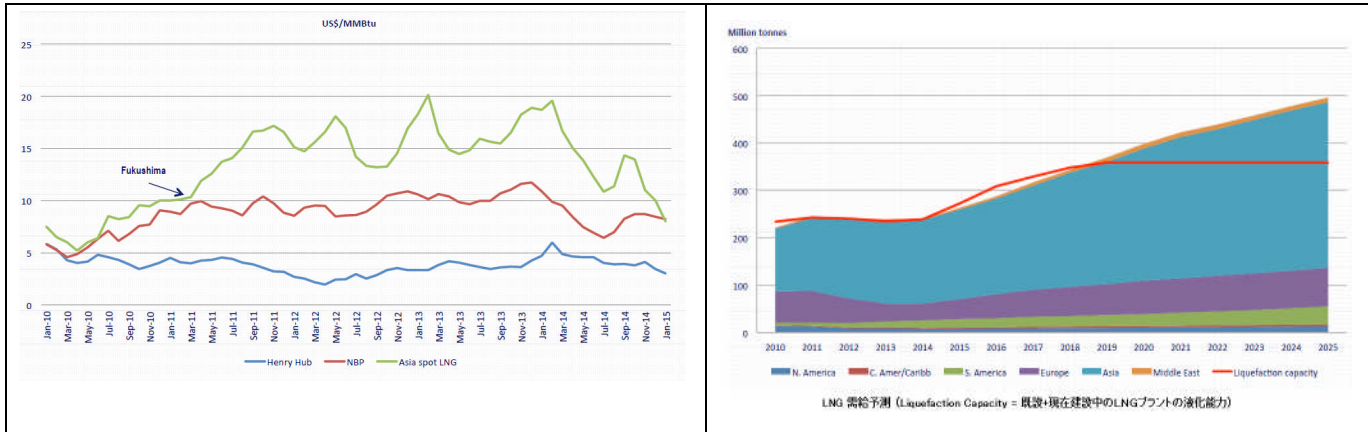


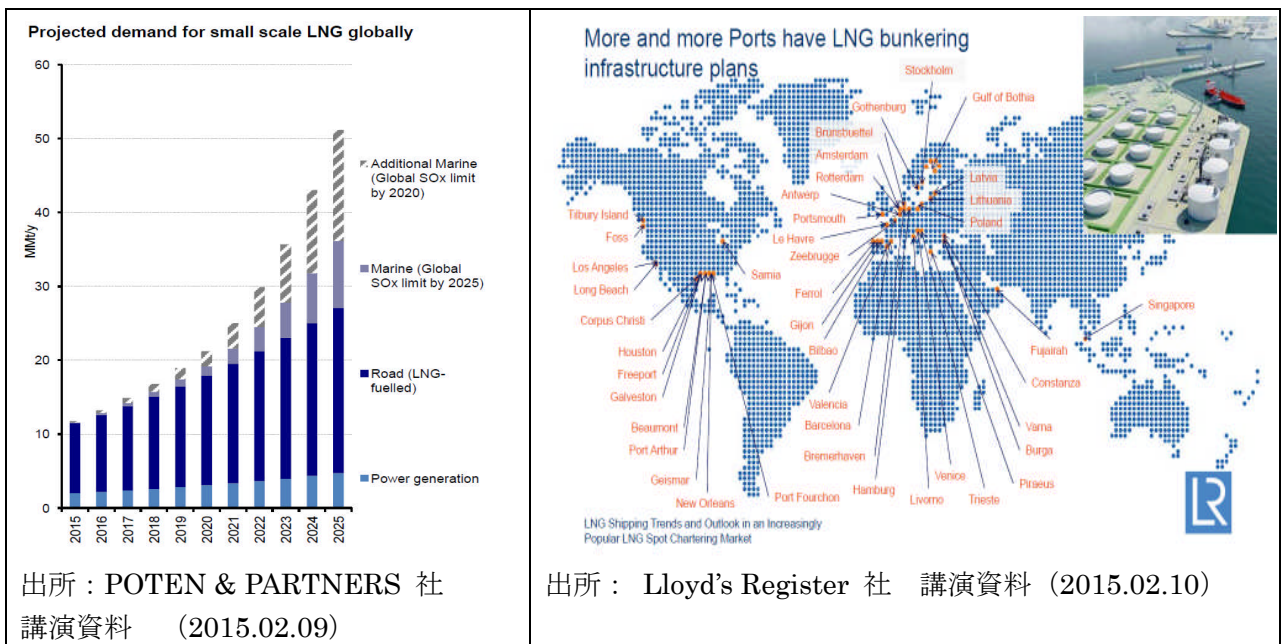
図1 LNGのSpot市場での価格と需給見通し出所: TRI-ZEN社 講演資料(2015.02.10)

## 2) LNG関連インフラとプロジェクト動向 :

2020年 or 2025年に施行される全海域でのSOx規制対応策として「LNG燃料船」への普及が進み、船舶燃料としてのLNG消費量は増加すると予想される。そのための燃料補給(Bunkering)インフラ整備が必要となる。

2014年, Lloyd's Register社の調査結果による燃料補給インフラ整備が必要な候補地を図2に示す。アジア地域ではSingapore/香港/上海/釜山/東京。インフラとしてSmall Scale LNGプラントの需要も見込まれる。

図2 LNG燃料船への燃料補給(Bunkering)インフラ整備動向



出所: POTEN & PARTNERS社 講演資料 (2015.02.09)

出所: Lloyd's Register社 講演資料 (2015.02.10)

今回の会議を通じて、多くの参加者と交流するなかで、彼らの一番の関心事は、世界一のLNGバイヤーである日本の「原発再稼働の時期と基数」、つまりは、「アジアのLNG価格はいくらになるのか?」という点であると改めて強く感じた。

以上